

厚生常任委員会視察研修報告書

視察地：関東地方

視察先：東京都千代田区、群馬県渋川市

実施日：令和元年7月23日（火）～7月24日（水）

旅 費：503,140円（公費）

【視察目的】

1. 東京都千代田役所
 - ・自動通話録音機設置事業について
2. 群馬県渋川市役所
 - ・乳児用液体ミルクの備蓄について

【視察結果】

1. 千代田区保健福祉部在宅支援課職員から千代田区で行っている自動通話録音機設置事業について説明を受けた。

千代田区では、東京都が進めていた自動通話録音機の無償配布を市単独事業として機器の設置まで無償で行うこととし、現在まで申請された約657世帯の内407世帯に録音機を設置しているとのことであった。

同居者が昼間働きに出て一人になることも考えられることから65歳の高齢者がいる世帯を対象とし、申請があれば設置し、電話がかかってくる「この電話は自動で録音されている」というアナウンスが流れた後自動録音されているとのことであった。

自動録音していることを知らせることで、不審な電話がかかってくる直ぐに相手側が切るなど詐欺被害防止の一助となっているとのことであった。

当事業の問題点としては、電話回線を利用することから、緊急通報システムとの併用が出来ない場合があるため申請されても設置できない場合がある。全ての電話を自動録音するため、知り合いからかかってきた際不便であり詐欺の場合にのみ録音出来ないかといった意見をいただいているとのことであり、今後の検討課題としているとのことであった。

また、千代田区が設置している高齢者総合サポートセンター「かがやきプラザ」を見学した。当施設は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように総合的に支援する施設で、60歳以上の区民で介護保険を使用していない方は登録すれば無料で利用できるとのことであり、見学時にも多くの利用者が卓球やビリヤード、麻雀などを行っており、楽しんでいる様子が見受けられた。

2. 渋川市危機管理室担当者から乳児用液体ミルクの備蓄について説明を受けた。

渋川市では、子育て世帯への支援として災害発生時における避難所での着替え、授乳、おむつ交換等のプライバシーを確保するために間仕切りテントを購

入し、紙おむつや粉ミルク、使い捨てほ乳瓶の計画的な備蓄を行っており、昨年9月に平成31年春に乳児用液体ミルクが販売予定との報道発表を受け、全国に先駆けて平成31年度予算に計上したとのことであった。

また、備蓄本数は、0歳から3歳までの人口に群馬県内で想定される最大規模の地震による被災率等を乗じて算出し3日間分備蓄しているとの説明があった。

予算計上に関する報道発表があった際に、市に母乳代用品の販売流通に関する国際基準に抵触するのではないかといった意見が寄せられたが、渋川市ではあくまでも防災備蓄品として購入しており、賞味期限が迫った液体ミルクについては、乳幼児健診で配布するのではなく、他の備蓄品と同様の考えで市民へ提供していくとの説明があった。

最近では、国内産の液体ミルクが量販店やコンビニにも流通するようになり、市民にも理解されるようになってきており、防災備蓄品体験会においても多くの親子が参加され好評であったとのことであった。

【視察効果及び西予市での応用】

1. 高齢者への詐欺被害は未だ減っておらず、自動通話録音機を設置することで詐欺被害が抑制されることも考えられることから西予市でも録音機の設置について検討が必要である。

しかし、西予市では、既に電話回線を使用した緊急通報システムを導入しているため、回線の併用が可能かどうか検討し、可能であれば前向きに自動通話録音機を導入したらよいと考える。

2. 災害用の備蓄品については、今年の西日本豪雨災害を受けて担当部署が様々な検討をしている。乳児用液体ミルクについては、手間が不要で、ライフラインが使えない場合でも使用可能であり、保存期限が短いというデメリットもあるが、今後発生する恐れのある南海トラフ巨大地震を考慮し導入すべきと考える。

令和元年8月2日

厚生常任委員会
委員長 源 正 樹

1. 東京都千代田区役所にて (R01. 7. 23)
～自動通話録音機設置事業について研修～
【講師：福祉部子育て応援課】

(写真右) 自動通話録音機

(写真左下) 高齢者総合サポートセンター



2. 群馬県渋川市役所にて (R01.7.24)
～乳児用液体ミルクの備蓄について研修～
【講師：危機管理室】

(写真右) 乳児用液体ミルク

(写真左下) 渋川市議会議場にて

